

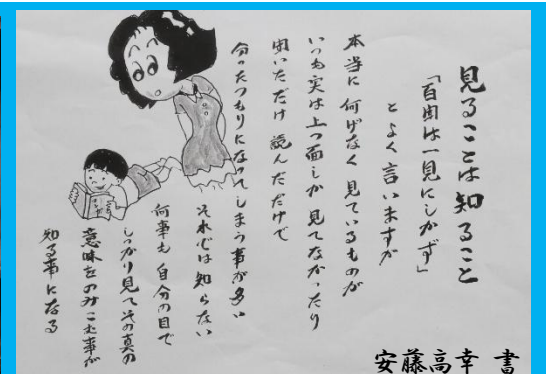
なかごう 10月号

中郷地区公民館だより 令和8年10月発行

発行 中郷地区公民館 Tel39-0713



いきいき学級野外研修 飢肥藩主伊東家の屋敷「豫章館」



はたちの実行委員会がスタート

20歳の成人を祝う「はたちの集い」の企画・運営を担う実行委員が決定し、第1回実行委員会を8月25日(火)に中郷地区公民館で開催しました。

今年度のはたちの集いは平成18年4月2日から平成19年4月1日までの生まれの人が対象で、9人の新成人が実行委員を引き受けてくれました。

社会教育関係団体等連絡協議会(略称「社教連」)役員の大人実行委員5人とともに、1月の式典開催に向けて、式典の日時やそれぞれの役職・役割などについて話し合いました。

●名称 令和8年度中郷地区はたちの集い

●日時 令和9年1月3日(日)

受付 午前10時 式典 午前10時30分

●場所 中郷地区公民館多目的ホール

【中郷地区はたちの集い実行委員会】※敬称略
会長 山内正一(社教連会長)

副会長 岩切順一、時任 豊(同副会長)

監事 花房 徹(同書記)、富迫博志(同事務局長)
(新成人実行委員)

実行委員長 大迫常利、副実行委員長 青屋醒奈、
坂本ゆら、会計 嶋田秋華、吉原香菜、伊東夢華
委員 横山奈々瀬、廣底英治、井ノ上駿



▲中郷地区はたちの集い実行委員会の皆さん

早大生が地区公民館で方言調査

卒業論文で都城市の方言の変遷を調査している、早稲田大学文学部4年生の新村真美さん(五十町出身)が中郷地区の住民に聞き取り調査を行いました。

大学進学で東京に行き、日本語の研究を進める中で都城の文化や言語の面白さに気づき、卒論のテーマにしたいと思った新村さん。9月3日に中郷地区公民館で、20～30代、40～60代、70代以上に分けて、年代ごとにどれくらい方言が使われているかを、「つむじ」は「じゅじゅまき」、「かえる」は「びっきょ」などの具体的な言葉を挙げて調査していました。

新村さんは『てげ』と『てげてげ』の使い方や若者の間だけで使われている『雨降るこっせん(雨が降って来そうじゃない?の意)』などの新方言にも着目して聞き取りをしている」と話していました。

調査は9月中に実施し、市内では中郷の外、五十市、姫城、沖水、山之口を訪問。宮崎市田野町でも同様の調査を行うとのことでした。

12月までに卒業論文を仕上げたいと話す新村さん。都城の方言がどのように残り、活用されていくと推測されるのか、論文の完成が楽しみです。

なお、今回の調査は自公連の山内正一会長に依頼があり、山内会長が聞き取り対象者の選定や依頼、場所の選定など段取りをされました。



▲方言について聞き取り調査を行う新村真美さん

宮崎国スポ・障スポを花でPR

令和9年に宮崎県で開催される第81回国民スポーツ大会・第26回全国障害者スポーツ大会(略称宮崎国スポ・障スポ)を花いっぱい運動で周知し、大会の機運を高めようと、大会事務局から中郷地区まちづくり協議会に花苗が配布されました。

9月7日(月)に中郷地区社会福祉協議会事務局とボランティアの皆さんが中郷地区公民館で花苗をプランターに移植し、地区内の小中学校、保育所、認定こども園、郵便局に配布しました。

配布した各施設には、花の水やりなど管理をお願いして、来客や通行人に宮崎国スポ・障スポをPRしてもらいます。



▲プランターに花苗を植えるボランティアの皆さん

ふれあい文化祭・福祉まつり

作品展示や児童・生徒の意見発表、ヤッサ節コンテスト、バザー、出店など盛りだくさんです。

11月7日(土) ふれあい文化祭・福祉まつり

9:20～福祉まつりオープニング

10:00～ヤッサ節コンテスト

11月8日(日) ふれあい文化祭(作品展示のみ)

10:00～教育文化講演会

※作品の出品は自治公民館長に相談ください。

雨の中いきいき学級野外研修

高齢者いきいき学級は9月18日(金)に野外研修を開催し、日南市を訪問するコースと高城町観音池公園で陶芸を体験する2コースで実施しました。

日南市コースには39人の学級生が参加。あいにくの雨の中の研修となりましたが、午前には堀川運河と油津の街、午後に飢肥城下を巡り、それぞれの歴史や街の成り立ちなどについて日南市ボランティアガイドの説明を受けて充実した研修となりました。



▲飢肥城大手門前でガイドの説明を受ける学級生

陶芸コースでは4人の学級生が陶芸工房「幸の陶」を訪れ、手回しロクロを使った「手びねり」や板状に伸ばした粘土に模様を付ける「たたらづくり」を体験しました。



▲講師の指導を受けながら陶芸を体験する学級生